



2012. 9. 16
No.47



結
yui

発行「憲法9条の会つくば」

〒305-0005

つくば市天久保 1-10-12 1-401

電話 090-3811-3753

Fax 029-856-2286



<http://peace.arrow.jp/tsukuba/>

—ピース9ツア—2012*平和とアートの旅—



夏の雲を追いかけて
信州安曇野の旅



写真提供：齋藤さだむさん 他

第2回目となった平和とアートの旅、今年は7月30～31日、真っ青な夏空に白い雲がポッカリ、ポッカリ浮かぶ信州・安曇野へ、9条の仲間24人で行ってきました。参加者の年齢は6歳から85歳と幅広く、ご夫婦や友人同士と和やかな雰囲気♪ バスレクでビンゴや歌を楽しみながらの旅となりました。

無言館——中世の教会のような空間で、平和への思い新たに

初日は上田の「無言館」と菅平の「らいてうの家」です。つくば→上田はさすがに遠く、途中「峠の釜飯」を買って車内で食べながら「無言館」に午後1時半頃に到着。見学の連絡は事前に入れてあったのですが、館長の窪島さんは不在でお話を聞くことは叶いませんでした。無言館は展示室が十字架をかたどったような造りになっており、窓も少なく中世の教会にいるような気持ちになります。しかし決して暗い雰囲気ではなく、戦没された若者たちの絵画や彫刻作品は今でも若い命の輝きを放っていました。これらの作品が美術館に収集されるまで、ご遺族が大切に保管されていたことにも感銘を受けました。

個人的なことですが、私の父も若い日、東京の画塾で日本画の勉強をしており召集令状が来たため郷里に呼び返されたと、生前話していました。今回父と同じ画塾（川端画学校）出身で、父と同じ戦地で亡くなられた青年の絵画に出会い、とても厳粛な思いにとらわれました。



らいてうの家——平塚らいてうが未来に託した9条への思い

「無言館」は収集作品が多く、皆さん「時間が足りない」と嘆きながらまたバスの旅に…予定より1時間以上遅れて「らいてうの家」に到着。ここは菅平高原の一番てっぺんあたりです。元々平塚らいてうが晩年を静かに過ごしたいという希望で購入していた土地だとか。しかしらいてうは死の直前まで平和を守る運動に関わり続け、この地で晩年を送る望みは叶いませんでした。「らいてうの家」は木づくりのログハウスのような素朴な家でしたが、涼しい風が吹きわたり1日中居たくなるような居心地の良さでした。ここではうれしいハプニング！普段常駐はされていない館長の米田佐代子さんにお会いでき「家」ができたいきさつ、らいてうの生涯についてのお話をじっくり聞くことができました。らいてうは戦後、憲法9条を守る活動に未来への希望を託し、「私は決して絶望しないでしよう」という言葉を次の世代への励ましを込めて語っていたのです。参加者のお一人Sさんは30代の米田さんにお会いしたことがあり、40年ぶりの再会だとか。女性運動の大先輩のお話に身が引き締められました。



🍃 ロッチデール山荘で一夜の饗宴

5時半頃、宿の「ロッチデール山荘」に到着。ここはつくばでは新婦人なすな班の会員だったKさんご夫婦が経営する民宿です。建物は古いですがアットホームな接待にくつろげました。夕食後の交流会は、羽目をはすすどころか、真面目な9条の会のメンバーらしく、この日の体験を元に平和への思いがこもこも語られ、その思いをお互いに共有できる貴重な機会になったと思います。ゆっくり交流できるのが宿泊旅行のいい所ですね。（穂積）



無言館、館長の窪島誠一郎さんがいらっしやらず残念。槐多館、信濃デッサン館、無言館、など戦没画学生の遺品を集めて記録し展示する建物、活動にやっぱり敬意。平塚らいてうの家、館長の米田佐代子さんのお話を聞くことが出来た。あの、米田さんと直接お話をしてしまドキドキ。宿泊したのは菅平高原のロッチデール山荘。生活協同組合発祥の地、イギリスのロッチデールを宿の名前にしたのは？今年「国際協同組合年」、平塚らいてうが89年前に提唱した「協同」の意味をみんなに考えてもらいたい、ものを共同購入するだけでなく人と人が協同することの意義を考えたい、とオーナーのKさんはおっしゃっていた。(S.K.)

🍃 ちひろが描きたいのちの輝き

2日目、さわやかな夏空のもと、高原シラスの畑を後にして向かった「いわさきちひろ美術館」は、北アルプスを背景に、清流が流れるゆったりとした敷地の中で、安曇野の自然に溶け込むようにたたずんでいました。ちひろの作品の数々

と共に、ちひろの生涯についての資料展示もあり、ちひろが生きた時代、芸術にどんな思いで取り組んできたかが紹介されていました。この夏ドキュメンタリー映画「いわさきちひろ～27歳の旅立ち」が公開され、画家いわさきちひろへの注目が集まっています。いわさきちひろは「子ども」を生涯のテーマとして描き続けたことはあまりに有名ですが、青春時代に戦争を体験し「世界中のこども みんなに 平和と しあわせを」という言葉通り、描いた子どもや花や人々は、今もいのちの輝き、平和の大切さを語り続けています。「ちひろ美術館が出会った世界と日本の絵本画家たち」「高橋和真パッケージクラフト展」などの企画展もあり盛り沢山で、またまた時間が足りない！との悲鳴を聞きつつ、美術館を後にしました。

🍃 バナナムーンで成瀬さんと交流

『週刊新潮』の表紙絵の画家で、9条の会のマスコットきゅーと君の作者、松川村9条の会の呼びかけ人でもある成瀬政博さんの個人美術館バナナムーンを訪ねました。山の雑木林の中に隠れるようにある山小屋風の可愛い建物、木の扉を開くとロフトがある高い天井のギャラリーとカフェが併設されたショップに分かれた空間が広がります。帽子をかぶったキャラクター、トッティと小さな猫が世界を旅するように描かれたファンタジックな絵の数々、

案内を見て即決した信州安曇野へのバス旅行。期待通りの旅でした！ずっと行きたいと思っていた「安曇野ちひろ美術館」。原画と絵本の微妙な色の違い、印刷技術が進んだとはいえ、やはり生はいいですね。敷地・建物含め素敵な空間でした。

ちひろの人となりを知ったのは、講談社文庫『いわさきちひろの絵と心』『ちひろのこぼれ』を読んでからです。壁の落ちかけた古い畳間を花いっぱい飾り、ぶどう酒1本とワイングラス二つ。四面楚歌の中での、23歳の若いコミュニストとの二人だけの結婚式。松本善明氏もこの本で知りました。ステキなおまけ(交流会)も付いた9条の会の旅。会がグッと身近に感じられるようになったかも。幹事と参加者の皆様に感謝です。(K.T.)

可愛らしくやわらかな色彩に心が和み、いつまでも見ていたくなる作品でした。いつの間にか館内にいらした成瀬政博さんと、カフェで飲み物を頂きながら交流することができました。描かれた絵のようにほんわかとした温かい雰囲気の中、成瀬さんに皆さん気楽にサインを求め、美術館の名前の由来や最近観た面白い映画の情報などをお聞きしながら、のんびりと楽しいひと時を過ごすことができました。ご参加頂いた皆さま、ありがとうございました。

来年はどこに行こうか…今年に負けない旅を企画できればと思います。(塩川)



原発問題からこの国の諸矛盾が見えてきた

踏みにじられた子どもの日のプレゼント

5月5日、唯一稼働していた北海道電力泊原発が定期点検に入り、我が国の原発50基がすべて停止しました。福島の前例事故を契機に急速に高まった「原発なくせ」、「再稼働するな」の声が「原発ゼロ」の日本を実現させたのです。しかし、子どもの日に素晴らしいプレゼントを贈れたと喜んだのも束の間、6月16日、野田は国民を裏切り大飯原発3、4号機の再稼働を強行しました。この暴挙は、エンジンのかかりの遅い私の闘争心にも火を点けました。いま意志表示をしなくては孫たちに顔向けできない、との思いから40年ぶりのデモ参加を決めました。

6月29日（金）夜、私は官邸前で抗議の声を上げる大勢の人々と共にいました。「金曜日行動」は、「首都圏反原発連合」有志という普通の人々の呼びかけで急速に広がったもので、「あじさい革命」と呼ばれる運動です。

新しい直接行動への期待

参加して感じたのは、えも言われぬ「居心地の良さ」でした。見ず知らずの人々に囲まれていながら何の違和感も孤独感もないのです。「反原発」の一点で集まった老若男女のひたむきな願いが優しい雰囲気となって辺りを包んでいるようでした。また、従来の集会やデモと違って「指揮系統」がはっきりしないにも拘らず、数万の集団が整然と抗議行動を展開していることにも感動しました。一人ひとりが自律的に動きながら集団としての調和を目指すのが成熟した生きやすい社会なのでしょうが、この集会にその萌芽をみた思いです。

このあと私は7月16日（月）の「さようなら原発10万人集会」（代々木公園、17万人参加）、7月29日（日）「脱原発国会大包囲」（国会周辺、20万人参加）にも参加し、8月31日の金曜日行動は出張先の福岡で、官邸前抗議行動に呼応して九州電力本社前で行われている「来んしゃい金曜！脱原発」に参加してきました。

反原発と核廃絶、安保破棄は根は一つ

反原発の行動にこれほど広範な人々が立ち上がっているのは、放射能への恐怖からだけではありません。原発問題を通して、国民に背を向け財界とアメリカに奉仕するこの国の官僚機構と政府の本質に気付きはじめたからでしょう。エネルギー政策、TPP、普天間、オスプレイ…、重要問題の根源に日米安保が有ることとも。

もちろん反原発だけを、また直接行動だけをやっていれば良いとは言いませんが、諸矛盾を見えやすくしているという点でこの問題は重要です。それぞれの場で、様々な課題と連携させて9条を守る活動を豊かにしていきましょう。因みに9月9日（日）に私は国会周辺で開かれる「沖縄県民大会と同時アクション」に参加しますが、妻は「9999活動」（9月9日9時9分からのつくば駅前9条宣伝活動）が終わってから私に合流する予定です。

H.K.（賛同人・梅園在住）

行動予定

- 9月23日（日）若い世代と戦争体験を聴く会
午前10：00～クラウドナイン
- 10月7日（日）定例署名 12：00～ アルス前
- 9日（火）9の日署名 12：00～ 西武前
- 19日（金）事務局会議 19：00～松代交流センター
- 29日（土）「九条の会」講演会 in 日比谷公会堂
「民主主義が試されるとき」13：30～
- 11月4日（日）定例署名 12：00～ アルス前
- 9日（金）9の日署名 12：00～ 西武前



当会では第1日曜日に定例署名行動、9日に西武前で9の日署名を行なっています。

8月は5日アルス前にて、8月9日長崎原爆の日に西武前で9の日署名を、7月16日は東海村で行われた茨城県母親大会で、9月9日には9999行動をつくば駅前で行ないました。

🌿 8・9月の署名行動報告

8月5日のアルス前・定例署名行動は、盛夏の中、荒牧さんの叙情歌ライブをバックに4名の方に参加頂きました。9月は雨天で中止となりました。9の日署名は8月9日(木)午後4時から西武デパート2階外広場で行ないました。長崎原爆の日行動をされていた新婦人と共に6人で署名を呼び掛け、9条署名、東海第2原発の廃炉を求める署名を頂きました。今回初めて参加して下さった方は「憲法9条や東海第2原発について、よく知らないという人が多いのに驚きました。署名活動がとても大事であることに気がきました」とのこと。憲法をめぐる情勢や、東海第2原発の廃炉について、署名をお願いする対話を通して、私たちは学びの大切さを改めて教えられている、と感じさせられたのでした。(事務局)

🌿 平和の鐘一振り運動

北斗寺：8月6日、9日の原爆投下の時間に、つくば市柴崎の北斗寺で平和の鐘をつかせて頂きました。大木の木漏れ日の下、静かに平和への祈りを捧げました。

花室幼稚園：8月9日長崎原爆投下の日、毎年鐘撞きをお願いしている「花室幼稚園」へ9条の賛同人5人で伺いました。幼稚園側からは、先生と年長組園児さん5人、本部の長寿館の職員さん1人計7人が参加されました。今年は園児さんにも鐘撞きの意味がわかるような説明をしてほしい、と要請されていたので、できるだけ平易にこの日長崎で起こったことと、2度と戦

「平和の鐘に」よせて

私は旧満州奉天(現・中国瀋陽)の生まれです。母は昭和16年、写真だけのお見合いで父と結婚、満州へ渡りました。昭和20年敗戦、逃避行の末、大連港から北海道の母の実家にたどり着きました。途中子どもを捨てたり、食糧と引き換えに売ったりした人達もいたそうです。まだ幸運の方でした。私が3歳、妹は2歳。父母にはよく連れて帰ってくれたと感謝しています。

「憲法9条の会つくば」の賛同人として、「平和の鐘一振り運動」に賛同し、一昨年から自由が丘めぐみ教会で行動に参加しています。昭和20年8月6日広島・9日長崎にアメリカは原子爆弾を投下しました。一瞬にして何万人もの人々を焼き尽くしたと言います。その時何が起きたのか、どんな状態だったか私たちには想像も出来ません。

それから66年、東電第一福島原発が水素爆発！日本は何んて愚かな国でしょう。今こそ、こんなバカな事を繰り返さないために、たとえ小さな声でも若い人たちに語り継いでいきたいです。(T.K.)

「憲法9条の会つくば」の活動から



◆賛同人 2012年9月1日現在
総数 882名 (市内 636名)
◆9条署名 9月12日現在 13,565筆

争はやめよう、ということをお話ししました。園児さんは、しっかりお話を聞いてくれ、その後とても上手に鐘をついてくれました。私たち大人たちも鐘撞きと合掌をし世界の平和を祈りました。(H)

自由が丘めぐみ教会：「平和の鐘集会」に、6日15名、9日14名が参加しました。6日は、鶴文乃さんが長崎原爆で父と兄が殺されたことや被爆者として平和の鐘運動を提唱されたことを話して下さいました。9日は、河村千枝さんが平和への想いを語って下さいました。両日ともに原爆投下時刻に教会の鐘をならし黙祷して平和を祈念しました。また阿部牧師さんが教団として脱原発をめざすことを表明されました。(伊藤)

🌿 東海村での母親大会に参加して

52回目の茨城県母親大会は7月16日、日本で初めて原子の火が灯った東海村で開催され、1000人が集いました。午前の「原発のない社会をどうつくるか！ーいのち・雇用・地域経済を考える」のシンポジウムでは、子どもたちを放射能から守る福島ネットワークの佐藤幸子さん、東海村の総合計画策定に関わり、原発事故に関する意識調査などを行っている茨城大学教授の渋谷敦司先生、そして東海原発廃炉を訴えている東海村村長の村上達也さんから、放射能によってどれほど福島の人々が苦しめられているか、東海村の中でもこのまま原発依存で良いのかと事故後は価値観の大きな変化が明らかになったなど報告がありました。中でも村上村長の「原発産業が村民を、地域社会をすべて金で変えてしまった」「原発依存の繁栄は一睡

の夢である」の言葉が胸に響きました。東海原発廃炉を提案した村上村長の『覚悟』を重く受け止め、廃炉の声を益々大きくしていかなければと思いました。

午後は、詩人のアーサー・ピナードさんによる講演。日本人以上に流暢に日本語を使いこなす彼の話はとても分かりやすいもので、アメリカと日本の関係や原子力の平和利用と銘打った原発推進の構造を説明されました。「這っても黒豆」という格言をご存知ですか？ 現実を見ないで自分の都合でものをいう事を揶揄したのですが、彼は日本をこのように風刺しました。

夏の始まりの暑い一日に、東京ではなく東海村で、原発廃炉を訴える村上村長の話を聞いたことは生涯忘れないだろうと思います。東海村にエールを！(H.M)

今年も夏がくると思い出す。あの敗戦の日のことを。暑い日ざしの昼、玉音放送が今までの騒乱が嘘のような静けさの内に始まり、敗戦を知った。怒り、泣き、悲しむ半面、ほっとした思いが実感であった。敗戦から半世紀を悠に越え 67年目の記念日を迎え、戦争体験をもつ人、その体験談を語る人も少なくなってきた。戦争に対する考え方が希薄に成りつつある社会を観るにつけ、孫子の時代は平和な国で在り続けられるのか危惧の念を抱いている。

戦争体験を子ども達に伝えておきたい

シルバークラブで戦争体験談(従軍体験、銃撃戦体験、人の生死を分ける話)を語る人は、枚挙にいとまが無いほどだったが、時と共に戦争の苦い話、悲しい話、そして恐怖について話す人が少なくなって久しい。私も古希を数年も過ぎ、先輩の経験に比べれば些細な体験だが、子供たちには戦争が不安と恐怖、そして残酷で悲惨なことを伝えておきたいと思う。

私は昭和 17 年 国民学校入学の軍国少年だった。食料、衣料品の配給が始まった年、それまで優勢であった戦局も敗色が濃くなり、昭和 19 年後半には本土空襲がはじまり不安の日々を過ごした。

昭和 20 年正月、雪模様の日、警戒警報、灯火管制で薄暗い食卓に、お汁粉に餅の入った椀(その頃には食べられなかった)が出ていた。食べながら母が「みんなが無事でいてほしい」と一言呟いた。最後の晩餐のような気持ちがした事が妙にこの歳になって脳裏から消えない。

家族で大八車を押して強制疎開

その後は品川下大崎の家が強制疎開にかかり、家が戦車で破壊される所を見ながら、大八車に荷物を

積み、家族みんなで車を押し世田谷の三軒茶屋の伯母の家へ疎開した。庶民が権力者により、いとも簡単に、私達家族も含め、人生を変えられた大事であったと今思う。

学校へ行くが警戒警報とともに下校となる、そんな或る日、下校途中、空襲警報になり家の近くの公園まで来たとき艦載機(戦闘機)の機銃掃射を受けた。キーンという金属轟音とともに、ダダダダー、バリ バリ バリ バリ、私は咄嗟に傍のコンクリ製の滑り台の下に逃げ込み、九死に一生をえて、今を生きている。

東京大空襲の恐怖と敗戦

その後、昭和 20 年 3 月 10 日、未明に東京大空襲で数万人が死に、下町が焼け野原となった。毎日寝る時も防空頭巾を枕元に、足にはゲートルを巻いて寝る有様でした。そんな或る日の夜警戒警報のサイレンに起こされ、身支度と共に空襲警報に変わり防空壕に逃げ込む瞬間、照明弾により一瞬昼間の様に明るくなり B29 の爆音と共にザーザー焼夷弾が落ち始め、その 1 発が我が家の軒先を掠め落ちた。瞬間、油状の液体が飛び散り瞬間に燃え上がった。母と共に不安と恐怖で駒沢方面の山へ逃げた。その夜目黒の伯母が焼夷弾を頭に直撃され即死されたと聞いた。翌朝、屍が横たわる焼け野原に家族の消息を求める人、食料を探す人、呆然と佇む人、地獄絵そのものの様であった。そして広島原爆投下、長崎でも…そして敗戦。

その後の食料難には、空腹の連続、子供の成長期、親も子育てに苦勞していた。

人の運命を人がねじ曲げる、戦争は大儀がどうであれ、避けなければならない。

▲ 憲法9条の会つくば ▼

7周年のつどい

2012 年 12 月 15 日(土)に決定! 筑波学院大学大講堂&第1食堂

9条カフェ
講演後お茶やお菓子を頂きながら交流します♪

わたしの主張

賛同人の皆さんの身近な声をお聞きます。



渡辺治さん講演会

憲法の存在が益々大きくなっている時代、渡辺さんが憲法のこれからを語ります。

渡辺治さん：1947年東京生まれ。東京大学法学部卒業の後78年より同大学社会科学研究所を経て、現在は一橋大学名誉教授。専門は政治学、日本政治史、憲法学。「九条の会」事務局。『日本国憲法「改正」史』(日本評論社)『増補版 憲法改正』(旬報社)『憲法9条と25条・その力と可能性』(かもがわ出版)ほか



本橋成一&スズキコージ展 BEFORE&AFTER 3・11

—いのちをどう捉えるか
展示・ライブ・上映を通して

3.11 以後、どのような考えに立って、どのような試みをしたらいいのか？ 私たちに何ができるのだろうか？

思考が立ち止まり、行っては立ち止まりしながら、考えていました。そんな時に、本橋成一さんとスズキコージさんのコラボレーション「ゲンパツイラナイ展」を見ました。写真と絵と二人のオリジナリティーが重なりあって、不思議な思いがしました。その思いとは、これから必然的に私たちは原発や放射能ということを考えて生きていかざるをえない。その暮らしの「考え方」へのヒントだったと思います。

そして『本橋成一&スズキコージ展 BEFORE&AFTER 3・11』を提示することにしました。展示・ライブ・上映会を盛り込んだこの企画を通して、何かを見つけようと試みました。答えを簡単に導きだすのは、見当違いでしょう。ただ一つ言える気がするの、いのちというものの捉え方をどうするかということです。3万人の自殺者が、どうやら今年は3万人を切るようですと、さも明るいニュースのように伝える、このいのちの捉え方のこと。私たちは、いつのまにかいのちを経済との比較で捉えるようになったのか。

そういえば、戦争も経済成長をする為には必要なもので、経済成長が国家を強固にしていくという論理が正論となったりします。スズキコージさんの『サルビルサ』は、戦争の絵本です。物を奪い合う為に、多くの兵隊を引き連れ、闘いをくり広げます。その時の、両陣営の会話は、すべて反対語。「ジモー」と叫べば「モジー」と叫びます。やがて大将は同士討ちになり兵隊は逃げてしま



い、獲物はカラスが取って行くというもの。何ら意味のない戦い…いのちに重大な損傷を与える放射能を降らせても、悔い改めず、尚維持しようとする事と、さほど変わらないのではないのでしょうか。いのちの尊さや生きる権利という方向から、いのちを捉え直していく、そのことから、希望を見いだしていく作業を根気よく企てて行くことが、必要な気がしました。

<http://before-after3-11.jimdo.com/> (野口修)

一枚のハガキ

—6月16日シネフォーラムつちうら上映会



「今日はお祭りですが、あなたがいらっ
しゃらないので、何の風情もありません」

森川友子が出征した夫定造に送った一枚の葉書。

定造が死に、その弟の後添えになり、夫をまた戦争で奪われ、舅、姑も死んだ。この家の中と、家の正面少し高い位置からのカメラ目線、淡々と入れ替わる人物像。空気が流れるように時間が流れ、人間の苦悩と悲しみだけが押し黙ったまま流されていく。クジにはずれ生き残った男が一枚の葉書を持ってやってくる。話を聞くうち、徐々に、そして突如「あんたは、なんで死ななんじゃあ！！」

葉書も家も焼き払い、それまで我慢していたものが、観ている者の分も含めて、大竹しのぶが怒って憎んで、蹴飛ばして、ぶん殴ってくれた。爽快感いっぱい。100歳の藤兼人監督あつぱれの最終作だった。監督はインタビューで「戦争は個を破壊する」ということを伝えたかったと話している。生きている限りは生々しく生きていきたいと語っていたが、死んでも枯れることなく、清々とした生々しい作品が数多く遺された。乙羽信子最後の作品「午後の遺言状」、4人の老人が生きていることと終わることを凄烈に見せてくれた。

私がリアルタイムで藤兼人を見たのは「裸の十九才」以降だと思う。それ以前のものは名画座で2本立て3本立てで観たものが多い。「原爆の子」「裸の島」「悪党」「かげろう」「竹山ひとり旅」「さくら隊散る」…よかった。(関谷)

インフォメーション

◇つくば子どもと教育センター・学習講演会

日時：9月29日(土)13:30~16:30
場所：並木交流センター 2F 大会議室
テーマ：「大阪の教育は今」講師：柚木健一さん
資料代：一般500円
問合せ先：TEL029-858-2034(事務局)

◇九条の会講演会—今、民主主義が試されるとき

日時：9月29日(土)13時(開場12時)~16時
会場：東京・日比谷公会堂
講演：大江健三郎 奥平康弘 澤地久枝
朗読：俳人「九条の会」、憲法九条を守る歌人の会、「九条の会」アピールに賛同する詩人の輪
参加費：前売り1000円 当日1500円
定員に達した場合は締切らせていただきます。

九条の会事務局：TEL03-3221-5075 fax03-3221-5076

◇十里舎でんでん—歌声・おしゃべりカフェ

日時：10月15日(月)11:00~
場所：十里舎でてこ〜いホールひらたい(稲敷郡河内町十里437)

参加費：500円
連絡先：NPO法人十里舎でんでん TEL0297-84-2596

◇憲法9条牛久の会—6周年のつどい

日時：10月20日(土)13:00 開場
場所：エスカードホール(牛久駅前・イズミヤ4階)
参加費：500円(学生・障がい者無料)
記念講演「放射能からママと子どもをまもる」
講師：野口邦和氏(日本大学准教授、福島大学客員教授)
連絡先：TEL/Fax029-872-2707(石毛)